JADECOM-NDC 研修センター

特定ケア看護師の挑戦

患者さんと医師，病棟スタッフのかけ橋を目指して

益田地域医療センター医師会病院　篠原真耶

向夏の候，コロナ禍収束に向けご尽力いただいている関係者の皆様には，大変感謝いたしております．今月担当させていただきます，益田地域医療センター医師会病院の篠原真耶と申します．

私の住んでいる島根県益田市は，画聖 雪舟が晩年を過ごした土地と言われ，万葉集の歌人としても知られる柿本人麿呂の出生・終焉の地でもあり，歴史とのつながりが深い地域です．また，国土交通省の水質調査で，過去何度も日本一に選ばれたことのある清流高津川があり，５月から６月下旬まで，たくさんのホタルを各地で楽しめる等，豊かな自然も多く残る恵まれた地域です．しかし，地域全体的に高齢化が進み，令和２年３月末には高齢化率37.8％と全国の高齢化率28.4％を大きく上回り深刻な問題となっています．

このような地域にある当院では地域医療支援病院として，地域医療に貢献し，医療水準の向上に努めるとともに，安心して暮らせる地域づくりを目的とし，益田地域のニーズにあった保健・医療・福祉の提供を理念としています．

私は地域包括ケア病棟に所属し，看護業務を行いながら特定ケア看護師として活動しています．地域包括ケア病棟では，60日という期限の中，病棟スタッフと専従リハビリテーションスタッフ，専任MSWと協力し，患者さんのリハビリや在宅・施設復帰に向けた退院調整を行っています．また，看取りの患者さんも増えてきており，患者さんの意思・家族の思いを尊重し，苦痛の緩和に努め，安楽に過ごしていただけるように心がけて関わっています．

病棟スタッフと協力し退院調整を行う中でも，高齢化の影響が大きく関わっていることを実感します．包括ケア病棟を利用される患者さんのほとんどが高齢者で，住み慣れた自宅や施設への退院を希望される方が多いです．しかしながら，入院前の生活が高齢独居の方や，高齢夫婦二人暮らしの方も多く，入院に伴うADLの低下が，元の生活に戻ることを困難にしてしまうケースが多々あります．また，高齢者の方は現疾患以外に，複数の持病や症状を抱えている方がほとんどです．退院間近になっての持病の急性増悪や，現疾患とは関係のない合併症を起こし重症化してしまい，退院時期を逃してしまうケースや，それに伴う更なるADLの低下によって自宅や施設への退院が困難となるケースも多いのです．

看護師は医療スタッフの中でどの職種よりも，患者さんと過ごす時間が長く寄り添う存在です．ですから，患者さんの「何かいつもと違う」を誰よりも早く感じ取れる存在でもあります．だからこそ，退院時期を逃してしまったケースに遭遇すると「あの時何かがおかしかった．それに対応できていたら」と後悔にさいなまれるスタッフも多くいます．特定行為看護師の研修を受けてみないかと声をかけていただいた時，一つでも多く患者さんの「何かいつもと違う」を病棟スタッフと一緒に拾い上げ，「何がいつもと違うのか」を言語化し，私が医師とのかけ橋となって早期に対処できる体制をつくりたいと思い研修を受けさせていただきました．

益田地域医療センター医師会病院

2020年３月に研修を終了し，病棟スタッフの一員として今も同じ思いで活動しています．

異変の早期発見のためには，患者さんの一番身近な存在である看護師の力が重要だと考えています．そのため，看護師一人ひとりの知識を深め広げることと，看護の質の向上を目標に，病棟スタッフへ勉強会を定期的に行っています．スタッフの「ここが知りたい」や，「現在入院患者さんに何が起こっているのか」等に目を向けた内容にし，看護ですぐに実践できる内容で開催することを意識しています．また，褥瘡やスキンテアの予防や処置の検討を行い，在宅での対応や，早期治癒に向けた取り組みを病棟全体で行えるように働きかけています．さらに，認知症患者さんやせん妄への対応，有病率の高い心疾患や呼吸器疾患，糖尿病に対する基礎知識や退院後の生活の注意点等を，病棟での日々の業務の中やカンファレンスを通して知識の共有をはかるようにしています．そして，「何かいつもと違う」を拾い上げ，言語化し，医師への報告・相談を行っています．最近では病棟スタッフからの相談も増えてきています．医師に相談するべきか迷ってしまう，ほんの些細な「何か違う」を気軽に相談できる立場に近づいているように感じます．また，他病棟のスタッフからも相談を受けることも増え，特定ケア看護師の存在が少しずつ浸透してきていることを嬉しく感じています．

院内全体の活動としては，外来や他病棟に入院中の患者さんの定期胃瘻交換を行っていますが，それ以外での横断的な活動はまだ行えていません．今後は，先輩特定ケア看護師と協力し，病院全体に目を向けた活動に取り組んでいきたいと思っています．

今はまだ，先輩の特定ケア看護師や病棟スタッフに教わることも多く，経験と知識不足を痛感する日々ですが，今後も患者さんと医師，看護師のかけ橋としての役割を果たせるように，共に働くスタッフを支えられるように，学ぶ姿勢を忘れず驕らず謙虚な姿勢で活動し成長できるよう研鑽を積んでまいります．